

国語 第6学年 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう 検討会の想定問答

指摘 1：ねらいが曖昧ではないか。絵巻を鑑賞する時間になっていないか。

返し：前半はC(1)ア・ウで絵と文章を関係付けて論の進め方を考える。後半はB(1)ウで、その工夫を使い、事実と感想・意見を区別して日本文化を紹介する。読む5時間と書く5時間は評価を分ける。

指摘 2：評価規準は何か。態度はどう見るか。

返し：三観点で国立教育政策研究所の参考資料の形に合わせた。態度は粘り強さ・学習の調整・重点の内容・言語活動の四つを含む一文（学年の目標(3)）。色分けシートと工夫カードの書き直し、読み合いの様子で見る。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：説明や解説などの文章を読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動（C(2)ア）。ここでは論の進め方や表現の工夫について考えたことを文章にまとめ、読み合って話し合う。

指摘 4：説明文の単元なのに、絵と古い文化の話ばかりでよいのか。

返し：説明的な文章の教材は図表や写真などを含むものを適宜取り上げる（第3の3(3)）。絵と文章を結び付けて読む力（C(1)ウ）を育てる教材で、古典を解説した文章を読むことも〔知識及び技能〕(3)イにある。

指摘 5：個に応じた指導はどこにあるか。

返し：二択の補助発問、拡大した写し、音声で聞く手立て、進んだ子への書くことへの橋渡し。障害のある児童などへの指導の工夫を計画的、組織的に行うことは第3の1(9)にある。

指摘 6：ICTはどう使うのか。

返し：絵巻全体を各自の端末で拡大して見ることと、色分けシートの共有。コンピュータや情報通信ネットワークの活用は第3の2(2)にある。紙の図版でも成り立つ設計にしている。

指摘 7：教科書の手引きどおりでいいのか。

返し：学習指導要領は教材の観点と言語活動のための選定を定め（第3の3(1)）、1時間ごとの順序は縛っていない。手引きの観点は参考にし、「なかったら」と比べる活動と絵巻全体との見比べはこの学級用に足した。

指摘 8：読むことに5時間では足りないのではないか。

返し：知識及び技能は思考力、判断力、表現力等の指導を通して指導するのが基本（第3の1(3)）なので、構成や表現の工夫の学習を読む活動に組み込んだ。足りない時は第3次の図書館の活動を別の時間か朝の読書に回す。

指摘 9：発問が多くないか。

返し：本時の発問は主発問一つで、他は手当て用の補助発問。予想を一文で書いてから活動に入るので、発問を重ねなくても目的が共有でき、叙述を基に考える時間（C(1)ア）を長く取れる。

指摘 10：板書の意図は。

返し：段落の帯（事実＝青・評価＝赤）で論の進め方を一目で見せ、左の三つの箱で工夫→効果を矢印でつなぐ（C(1)ウ）。振り返りの型と同じ向きにしている。

指摘 11：振り返りは何を書かせるのか。

返し：工夫→効果の型で二文。日常の言語活動を振り返ることを通して、実際に読む場面を意識できるようにする（第3の2(1)ア）。単元の終わりに、第1次の見通しと比べさせる。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：目標(2)、〔知識及び技能〕(1)カ・クと(3)イ、C(1)ア・ウ・オ・カ、言語活動C(2)ア。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

